

平成23年3月に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を克服し、復興を加速させることは、本市において最重要項目です。

市は、“ロボット産業”を浜通り地域での将来的な発展の可能性を持つ新産業の一つとして捉えるとともに、平成28年4月に設置が決定したロボットテストフィールド等を活用し、南相馬市復興総合計画の基本構想で掲げる将来像「みんなでつくるかがやきとやすらぎのまち南相馬」の実現に向けた取り組みを加速させるべく、今般、“ロボット振興ビジョン”を策定し、本市の目指すべき共通の姿を市民と共に描くことにより、「ロボットのまち南相馬」を実現します。

1 国家戦略（イノベーション・コースト構想等）に基づくロボット振興

平成26年6月、国は、「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会」報告書で、“**ロボット産業**”を浜通り地域での将来的な発展の可能性を持つ新産業の一つとして記載。

さらに、平成27年2月、国は「**ロボット新戦略**」を策定し、日本を世界のロボットイノベーション拠点とする等方向性を示した他、平成28年6月には「**日本再興戦略2016 ー第4次産業革命に向けてー**」を閣議決定し、その中でIoT・ビッグデータ・AI（人工知能）・ロボットといった高度技術を活用した第4次産業革命の実現を位置付け、今後ドローンや自動走行車等新たな技術を通じた取組を加速化させることを明記。

2 国家戦略に基づく国、県及び民間事業者の取組

3 ロボット振興に向けた他自治体の取組

平成26年12月、イノベーション・コースト構想の具体化に向けて国・県・市町村等が一体となった取組を進めるべく「**イノベーション・コースト構想推進会議**」が設置され、浜通りの復興に向けた検討が加速化。

また、国・県・浜通り自治体は、平成27年8月から**福島浜通りロボット実証区域**を設置し、橋梁・ダム・河川等のオープンスペースをロボット実証試験の場として活用する取組を推進。（平成29年4月末時点、31事業者86日間活動。）

平成28年4月に南相馬市と浪江町に整備することが決まったロボットテストフィールドには

無人航空機を活用した物流分野

無人航空機及び水中ロボットを活用したインフラ点検分野

無人航空機及び陸上ロボットを活用した災害対応分野

の実証試験や実地訓練を行うための施設及び設備が、**国際産学官共同研究施設**には、基礎性能実験評価及び実証試験等を受けて行う製品の改良に必要な工作機械・設備が整備予定。（平成30年度から順次設備を開所予定）

また、**民間事業者の取組**として、NEDO、日本無人機運行管理コンソーシアム（JUTM）、ロボット革命イニシアティブ協議会等、企業・ロボット関連団体等の動きも活性化。

（平成29年1月、世界初の完全自律制御による回転翼ドローンでの長距離荷物配送の飛行試験を南相馬で実施）

平成27年11月、安倍総理は第2回未来投資に向けた官民対話において、「2020年オリンピック・パラリンピックでの無人自動走行による移動サービスや、高速道路での自動運転が可能となるようにする。このため、2017年までに必要な実証を可能とすることを含め、制度やインフラを整備する。」とご発言。

市は、自動運転技術は交通事故の低減のほか、人手不足の地域での省力化に繋がるものと期待しており、まずは、避難指示が平成28年7月に解除された小高区で、JR小高駅と小高産業技術高の間を自動運転による無人バスで結ぶ実証実験に取組むべく検討を開始。

ロボット振興に関し、他自治体においても積極的な取組が進んでおり、これら他自治体との連携・協力が重要。

4 ロボット振興に向けた南相馬市の取組及び今後の方向性について

東日本大震災以降、市は、**新たな経済成長と雇用創出の施策**として、**ロボット関連産業の創出に向けた取組を推進中**。また、平成23年12月、**地元企業等**もその取組に呼応して「**南相馬ロボット産業協議会**」を発足、会員企業共同でのロボット開発や展示会・イベントへの出展等の活動を活性化中。

この取組を加速化させるべく、市は、平成28年4月、ロボットテストフィールド等拠点の核となる施設整備が決まった後、**体制を強化**するとともに（同年7月、**ロボット産業推進室設置及びロボット産業推進アドバイザー制度を創設**）、シンポジウムやドローン体験会、レース大会等関連施策を推進中。

南相馬の目指すべき姿

1 ロボット人材輩出のまち 南相馬

世界に冠たるロボットの研究・実証拠点「ロボットテストフィールド」等の拠点を最大限活用し、ロボット関係者等と市内企業、児童・生徒・学生等、商工会議所、商工会等を含めた地域のまちづくり機関等が触れ合う機会を創出。

2 ロボット技術革新のまち 南相馬

地元企業とロボットテストフィールド等を活用する交流人材や企業がロボット政策を進める国・県と連携を深めながら、国・県・市などの支援策を活用することにより、ロボット技術革新のまちを確立。

3 ロボット産業集積のまち 南相馬

貸事務所・工場等の整備を推進したり、トップセールスの実施等により、ロボット産業の活性化及び集積を促し、設計から試作、改良、認証、製造までを南相馬で行う「Made in Minamisoma」のロボットを世界に向けて発信。

4 ロボットベンチャー輩出のまち 南相馬

クリエイターの創業をサポートする体制を整備するとともに、新しいものを受け入れる・チャレンジする文化を醸成。

5 日本の競争力の源泉・ロボット教育先進のまち 南相馬

小・中学生からロボット等先進技術に触れ合う機会を創出するとともに、ロボットテストフィールド等を社会科見学・修学旅行等の対象として活用。

また、小高産業技術高校やテクノアカデミー浜等の教育機関と連携し、未来を担う若手に、ロボットを通じたイノベーション等を身近に感じてもらえるよう研究者・技術者・企業等による出張講義の機会を設けるほか、大学等の研究機関との連携を強化する等、教育を活性化。

6 世界一ロボットの実証実験・チャレンジがしやすく、ロボットが日常に溶けこんだまち 南相馬

市内の各施設にロボット・先進技術を導入・活用するとともに、イノベーションを起こすべく取り組みを進める人・企業を支えるため、市が県と連携し積極的な取り組みを実施し、世界一ロボット実証・チャレンジがしやすいまちを創出。

また、無人自動走行システムの活用を検討する等、ロボットが街中を飛行・走行する景色が日常化しロボットとまちが一体となった環境を創出。

7 ロボットを活用したツーリズム・スポーツのフロンティア 南相馬

ロボット国際大会、ドローンレース大会等のイベントの開催やアニメ・ゆるキャラ等を活用した取組を進めるとともに、社会インフラを整備し最大限活用。